

デジタルデータの管理について

2018.4 立教大学現代心理学部心理学研究倫理委員会

個人情報の管理には最新の注意が必要である。研究者は、盗難、紛失、ハッキングなどによって、個人情報が流出したり、プライバシーが侵害されたり、関係者を精神的に傷つけたりするリスクを最小限にするための努力を惜しんではならない。リスクを完璧にゼロにすることはできないが、以下の方法を参考にして、情報の重要度（情報が流出した場合の被害の程度）に応じた対策を実行して欲しい。

1. データの保存について。

個人情報が含まれるデータである面接や観察記録などを IC レコーダに録音したりやビデオに録画したりした場合は、すみやかにデータを暗号化して保存する。

2. データの管理について。

データは、個人が特定されないような ID により管理する。協力者の名前は記号や番号による ID に置き換え、ID と個人名の対照表は手書きで作成し、研究責任者が責任を持って鍵のかかる場所に保管する。対照表は研究者以外に触れられないようにする。

3. 電子機器のセキュリティについて。

研究に使用する PC、タブレット、USB などの記憶媒体には必ずパスワードをかけ、また、セキュリティ・ソフトを使用する。データは、PC、タブレット、USB などの媒体においては一時的にのみ使用するものとする。データの保存は、USB ではなく、外付けハードディスクに、パスワードをかけて行うものとする。外付けハードディスクは、データ使用后、必ずすみやかにとりはずすものとする。

4. クラウドサーバーの利用について。

クラウドサーバー上でのデータ管理は、1-3 の事項を遵守した上で、一時的にのみ行うこととする。また、データは一般的に公開される場所（Public フォルダ等）に置かず、必ず管理者および管理者が閲覧を許可した者のみアクセスできる場所に置く。